

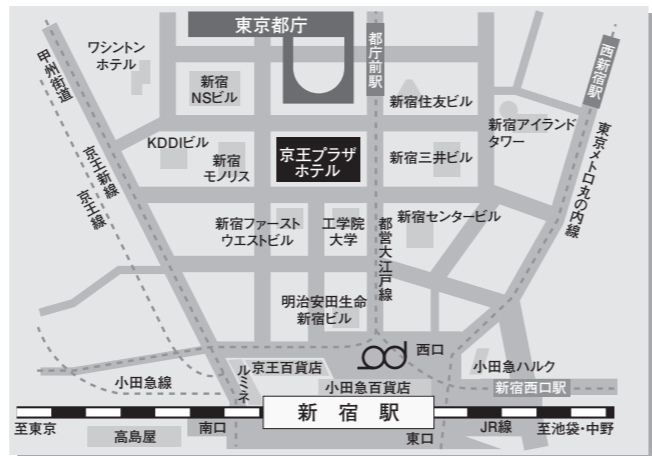
会場案内

会場 京王プラザホテル 5F「コンコードBC」

〒160-8330 新宿区西新宿2-2-1  
TEL 03-3344-0111(代)

- 「新宿駅」西口下車 徒歩5分(JR線)
- 「新宿駅」下車 徒歩5分  
(京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線・都営新宿線)
- 「都庁前駅」下車B1出口すぐ(都営大江戸線)

参加費 ■会員 無料  
■非会員 3,000円  
懇親会費 ■会員 3,000円  
■非会員 5,000円



問合せ先

NPOメンタルケア協議会 〒151-0053 渋谷区代々木1-57-4 ドルミ第2代々木 2F  
TEL03-5333-6446 FAX03-5333-6445 net@npo-jam.org http://www.npo-jam.org

参加申込方法

事前登録 可能であればインターネットでお申し込み下さい。

	インターネット ホームページから	FAXで申し込み
<b>申し込み</b>	●ホームページ(http://www.npo-jam.org)にアクセスし、シンポジウム参加申し込みのページに必要な事項を入力し、送信してください。	●下記申込用紙に必要な事項を記入し、FAX送信してください。(FAX 03-5333-6445)
	※10月30日(月)までにご発信ください 定員になり次第、期日前でも締め切ります。ご了承ください。	
<b>受付確認</b>	●すぐにご登録頂いたメールアドレスへ受信確認のメールを返信いたします。この返信メールがお申込受付証となります。 <small>(届かない場合は、メールアドレスの記入などに間違いがないか確認後、ご連絡下さい)</small>	●後日、FAXでお申込受付証を送付します。数日待っても届かない場合はお問い合わせください。
<b>当日</b>	お申込受付証を受付にご提示ください	

当日受付 事前受付登録者が優先となります。  
参加人数によって、ご入場・ご着席できない場合があります。ご了承ください。

FAX申し込み用紙(FAX 03-5333-6445) ※申し込みはお一人様ずつお願いいたします。 FAX送信方向 ↑

ふりがな 氏名	勤務先名	
	職種	
住所 〒	TEL	
<input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 自宅	FAX	
	e-mail	
メンタルケア協議会 …… <input type="checkbox"/> 会員 ・ <input type="checkbox"/> 非会員	(シンポジウム参加費:会員無料/非会員3,000円)	
懇親会に参加 …… <input type="checkbox"/> する ・ <input type="checkbox"/> しない	懇親会参加費:会員3,000円・非会員5,000円	

# 15<sup>法人化</sup> NPOメンタルケア協議会 周年記念イベントのご案内

記念シンポジウム

## ディベート! 精神保健福祉法

～事例から具体的に精神保健福祉法と精神科医療のあり方を論じる～

### 11月5日(日)

記念式典・シンポジウム 12:00～16:00 5階 コンコードBC  
懇親会 16:30～18:30 42階 高尾

会場:京王プラザホテル

特定非営利活動法人メンタルケア協議会は、今年で法人化15周年を迎えました。法人化した年の7月、東京都より「東京都精神科救急医療情報センター」の事業を受託。その後、「東京都夜間こころの電話相談」、「東京都自殺相談ダイヤル」などの事業を受託して行ってきました。「自殺未遂者対応連携支援事業」こころのこのサポートネット」などの事業を受託して行ってきました。このたび、法人化15周年を記念して、ささやかなイベントを行います。記念シンポジウムでは、最近増えている、対応の難しいケースを取り上げ、それぞれの事例の見立て、精神科医療が担うべき役割、そして、精神保健福祉法のあり方について、具体的に論じてみたいと思います。

主催 NPOメンタルケア協議会

〒151-0053 渋谷区代々木1-57-4 ドルミ第2代々木 2F  
TEL03-5333-6446 FAX03-5333-6445  
net@npo-jam.org http://www.npo-jam.org

後援 公益社団法人東京都医師会

12：00～ **第1部 メンタルケア協議会法人化15周年記念式典**

- 挨拶  
メンタルケア協議会が15年間に行ってきた事業の報告  
メンタルケア協議会理事長 代々木の森診療所理事長 羽藤 邦利
- 祝辞  
東京都福祉保健局障害者医療担当部長 石黒 雅浩  
東京都医師会副会長 平川 博之  
東京精神科病院協会会長 平川 淳一  
東京精神神経科診療所協会会長 神山 昭男
- 表 彰

12：50～ **第2部 15周年記念 メンタルケア協議会シンポジウム**

**ディベート！ 精神保健福祉法**  
～事例から具体的に精神保健福祉法と精神科医療のあり方を論じる～

- 基調講演  
「精神保健福祉法改正の論点」  
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 社会復帰研究部部长 藤井 千代
- 「措置入院ガイドラインの焦点」  
千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門特任准教授 椎名 明大
- 「最近の精神疾患の疾病構成の変化について」  
メンタルケア協議会理事長 代々木の森診療所理事長 羽藤 邦利

《休憩》

14：00～ ●事例検討形式のディベート 【事例3例】

- |        |  |   |
|--------|--|---|
| 座 長    | 大下 隆司<br>西村 由紀   | メンタルケア協議会副理事長・代々木の森診療所院長<br>メンタルケア協議会理事   |
| シンポジスト | 岩下 覚<br>椎名 明大<br>成瀬 暢也<br>西村 隆夫<br>羽藤 邦利<br>藤井 千代<br>植松 和光 | メンタルケア協議会理事・桜ヶ丘記念病院院長<br>千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門特任准教授<br>埼玉県立精神医療センター副病院長<br>メンタルケア協議会副理事長・にしむらクリニック院長<br>メンタルケア協議会理事長・代々木の森診療所院長<br>国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 社会復帰研究部部长<br>東京つくし会副会長・国立市精神障害者家族会シュロの会会長 |

15：55～ ●閉会挨拶 メンタルケア協議会副理事長・にしむらクリニック院長 西村 隆夫

16：30～ ●懇親会 会場：京王プラザホテル 42F「高尾」

**岩下 覚** (いわした・さとる)：精神科医、社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院院長  
1980年、慶應義塾大学医学部卒業。同精神神経科教室での研修を経て、1981年より467床、8病棟を擁する大規模精神科病棟である桜ヶ丘記念病院に勤務。2008年より同病院院長。

**植松 和光** (うえまつ・かずみつ)：東京つくし会副会長、国立市精神障害者家族会シュロの会会長  
「シュロの会」は精神障害者の作業所である棕櫚亭(しゅろついでい)が行っていた家族会活動を当事者の家族が引き継ぎ、平成8年に発足。家族に精神疾患を持つ人たちが集まり、同じ悩みを語り合い、互いに支えあいながら「相互支援」(助け合い)・「学習」(学びあい、知見を広げる)・「社会活動」(外に向かって働きかけ)を基本方針に家族交流会や広報活動などを行っている。

**椎名 明大** (しいな・あきひろ)：精神科医、千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門特任准教授  
2000年千葉大学医学部卒業。千葉大精神科に入局後、国保旭中央病院内科ローテート研修などを経て、2004年4月より2年間厚生労働省精神保健福祉課で心神喪失者等医療観察法施行準備、精神保健福祉法改正等の業務に従事。2006年4月より千葉大学医学部附属病院精神神経科にて勤務。2016年4月より現職、司法精神医療を日本の精神医療現場に根付かせるための取り組みを続けている。専門分野は司法精神医学、医療観察法、認知行動療法、森田療法、摂食障害など。

**成瀬 暢也** (なるせ・のぶや)：精神科医、埼玉県立精神医療センター副病院長(兼 埼玉県立精神保健福祉センター副センター長)  
1986年順天堂大学医学部卒業。同大精神神経科入局、助手を経て、埼玉県立精神保健総合センター(現埼玉県立精神医療センター・埼玉県立精神保健福祉センター)開設と同時に勤務。2008年より埼玉県立精神医療センター副病院長。専門分野は薬物依存症・アルコール依存症、中毒性精神病の臨床。

**【事例 1】 家庭内暴力**

- 男性26才。高校中退、ひきこもり。精神科クリニック通院中。
- ここ3年、父親に暴力を振るい、何度も警察が呼ばれている。
- 本日は、父親を殴り、包丁で脅した(父親はケガ無し)。警察が臨場しても、興奮が収まらない。
- 16才から精神科通院しているが、通院先が変わるたびに「躁うつ病」、「適応障害」、「パーソナリティ障害」、「発達障害」と診断が変わってきた。
- 家族は怯えて入院治療を望んでいるが、主治医は「強制入院させたら却って家族への恨みが強くなるからやめたほうがよい」と言っている。23条通報しても、措置診察には至らなかった。

**【事例 2】 育児不安、母子心中企図**

- 女性29才。3年前に結婚、1か月前に出産。5年以上前にリストカットで精神科受診歴有。
- 出産直後から強度の不眠と不安。「子どもが可愛いと思えない、育児が負担、子どもが不幸になる」、「子どもを殺して私も死ぬ」と訴えていた。
- 本日、子どもの首を絞めようとしていたのを、夫が取り押さえた。
- 本人は、実家の両親から虐待を受けていたことがあり、今でも交流が無い。夫が仕事をしなければ食べていけない。仕事では母子を見守ることはできないが、夫としては子どもを施設に預けることはできるだけしたくない。

**【事例 3】 処方薬依存と乱用**

- 女性24才。派遣社員。「うつ状態」で心療内科クリニック通院中。
- 高校生からうつ状態と不安発作で、心療内科や内科クリニックを転々としながら、処方薬(抗不安薬と睡眠導入剤)を常用している。
- 専門学校を卒業後、一人暮らし。転職を繰り返している。職場の人間関係がきっかけで不安定になり、過量服薬をくりかえしている。これまでに5回救急搬送された。
- 本日、SNSで知り合った唯一の友人と、ラインで喧嘩になり、睡眠導入剤(フルニトラゼパム推定100錠)をワインで飲んで昏睡状態。救急搬送。
- 本人は、口うるさい母親を嫌っていて、絶対に両親に知らせてほしくないと言う。精神科の入院は拒否し、家に帰ると言っている。

**西村 隆夫** (にしむら・たかお)：精神科医、にしむらクリニック院長  
1980年3月筑波大学医学専門学群卒業。同年4月国立武蔵療養所研修医(現・国立精神神経医療研究センター病院)。1982年4月神戸大学医学部精神神経科教室。1983年4月国立武蔵療養所医員。1985年4月にしの木診療所勤務。1987年5月三ヶ島病院勤務。1992年5月都立松沢病院精神科。1993年5月都立多摩総合医療センター(旧府中病院)精神科部長。2012年10月にしむらクリニック開設。

**羽藤 邦利** (はとう・くにとし)：精神科医、メンタルケア協議会理事長、代々木の森診療所理事長  
1967年京都大学医学部卒業。東京大学付属病院、富士病院、東京都立松沢病院を経て、1983年代々木の森診療所開設。1991年1月より代々木の森診療所院長。H24年4月より同診療所理事長。専門分野は臨床精神医学一般。

**藤井 千代** (ふじい・ちよ)：精神科医、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 社会復帰研究部部长  
1993年防衛医科大学校卒業、2001年慶應義塾大学大学院修了。自衛隊中央病院精神科医長、埼玉県立大学保健医療福祉学研究所・准教授を経て、2014年より国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所司法精神医学研究部室長。2015年より現職。専門分野は地域精神保健、精神科リハビリテーションなど。